

掲示用

社会的信頼を失墜させる飲酒運転

全日本トラック協会では、令和2(2020)年までを目標年とする「トラック事業における総合安全プラン2020」を策定し、「飲酒運転ゼロ」を目標とし、関係者一丸となって取り組んできましたが、今年8月21日までに全国で20件もの飲酒運転事故が発生しました。

トラック運送業界は、コロナ禍にあっても、社会機能を維持するために事業を継続し、生活(くらし)と

経済の「ライフライン」として社会貢献を行っていますが、一部の心ないドライバーが惹起した飲酒運転事故が続けば、業界全体の信頼を失墜させてしまうことになりかねません。ここでは、最新の車籍別事故件数・事例を紹介しますので、社内で情報を共有し、飲酒運転根絶意識を向上させるなど指導監督の取り組みを強化して下さい。

図1 車籍地別飲酒運転事故件数※

※飲酒運転事故件数は、平成29年から令和元年までの各年の飲酒運転による事故件数と、令和2年8月21日時点までの速報値の累計(96件)です。

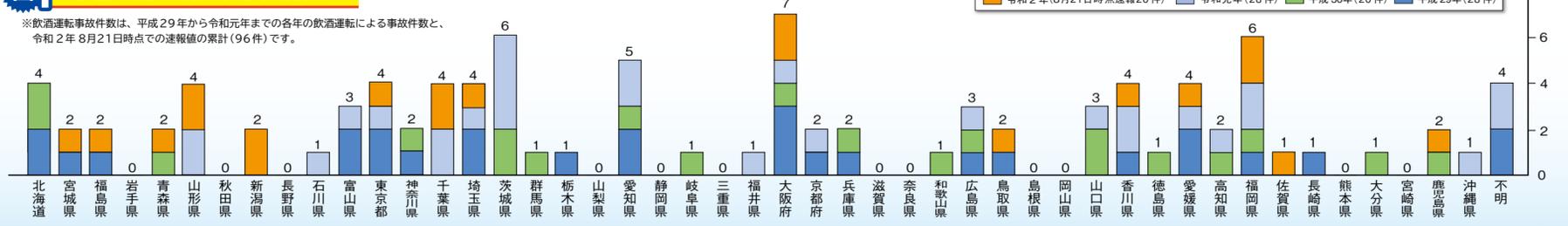


図2 事業用トラックの飲酒運転事故事例 (令和2年1月~8月21日)(速報値)

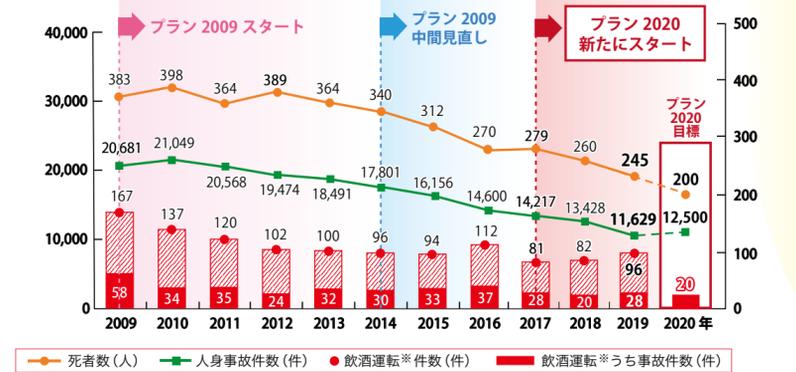
事故等の種類	車籍地	発生日時	死傷状況	当時の状況
1 酒気帯び衝突	千葉県	1月20日 9時45分	死亡: 0 負傷: 0	千葉県の国道の交差点において、同様に営業所を置くトラック・ボルトレーラが進行中、信号待ちで停車中の軽乗用車に衝突した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察による調べにより、当該トラック・ボルトレーラ運転者は、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
2 酒気帯び追突	大阪府	1月31日 10時10分	死亡: 1 負傷: 0	茨城県の国道において、大阪府に営業所を置くトラックが進行中、前方を走行中のトラックに追突した。この事故により、追突されたトラックの運転者が軽傷を負った。事故後の警察による調べにより、当該トラック運転者は、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
3 酒気帯び物損	鳥取県	2月10日 17時20分	死亡: 0 負傷: 0	千葉県の神社敷地内において、鳥取県に営業所を置くトラック・バンセミトレーラが方向転換しようとしたところ、当該神社の建物に接触した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック・バンセミトレーラ運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
4 酒気帯び追突	東京都	3月17日 21時10分	死亡: 1 負傷: 0	愛知県の国道において、都内に営業所を置く大型トラックが進行中、前方の乗用車に追突し、その弾みで当該乗用車が別の乗用車に追突した。この事故により、当該トラックに追突された乗用車の運転者が死亡した。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
5 酒気帯び物損	宮城県	4月4日 20時55分	死亡: 0 負傷: 0	岩手県の高速度道路において、宮城県に営業所を置くトラックが進行中、中央分離帯のワイヤーロープに衝突した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察による調べにより、当該トラック運転者は、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
6 酒気帯び路外逸脱	山形県	4月22日 1時40分	死亡: 0 負傷: 0	山形県の国道において、同様に営業所を置くトラックが進行中、路外に逸脱し水田に転落した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
7 酒気帯び衝突	大阪府	4月24日 8時58分	死亡: 1 負傷: 0	兵庫県の国道において、大阪府に営業所を置くトラックが進行中、前方のバイクを追い越そうとしたところ、接触し当該バイクが転倒した。この事故により、当該バイクの運転者が軽傷を負った。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
8 酒気帯び物損	佐賀県	4月29日 0時50分	死亡: 0 負傷: 0	佐賀県の国道において、同様に営業所を置くトラックが進行中、道路脇の無人の車庫に衝突した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者は、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
9 酒気帯び物損	愛媛県	5月2日 18時40分	死亡: 0 負傷: 0	千葉県の駐車場において、愛媛県に営業所を置くトラック・コンテナセミトレーラが進行中、当該駐車場のポールに衝突した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック・コンテナセミトレーラ運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
10 酒気帯び物損	香川県	5月10日 13時	死亡: 0 負傷: 0	大阪府の高速度道路において、香川県に営業所を置くトラックが進行中、左側フェンスに衝突した。この事故により、荷物は散乱したが、負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出された。
11 酒気帯び衝突	福島県	5月11日 15時30分	死亡: 1 負傷: 0	静岡県の国道において、福島県に営業所を置く大型トラックが進行中、前を走行していた車両に衝突した。この事故により、衝突された車両の運転者が軽傷を負った。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
12 酒気帯び衝突	新潟県	5月12日 7時55分	死亡: 0 負傷: 0	群馬県の高速度道路のパーキングエリア内において、新潟県に営業所を置くトラックが進行中、駐車中のトラックに衝突した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
13 酒気帯び物損	鹿児島県	5月19日 6時10分	死亡: 0 負傷: 0	宮崎県の国道において、鹿児島県に営業所を置くトラック・トレーラが進行中、ガードレールに接触した。この事故による負傷者はなし。現場にいた他のドライバーから警察の事故処理の様子が無事との連絡を受け、当該トラック・トレーラ運転手へ再度確認したところ、飲酒が発覚したとのこと。
14 酒気帯び衝突	福岡県	5月26日 17時55分	死亡: 0 負傷: 0	岡山県の市道において、福岡県に営業所を置くトラックが進行中、行き違いの為停車していた軽貨物車両に接触した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
15 酒酔い衝突	千葉県	6月2日 5時27分	死亡: 1 負傷: 0	千葉県の国道(片側2車線)において、同様に営業所を置く大型トラックが第2通行帯を進行中、前方の第1通行帯を走行していたトラック・セミトレーラに衝突したが、そのまま走り去った。この事故により、トラック・セミトレーラの運転者が軽傷を負った。その後の警察の調べにより、当該大型トラックの運転者は、酒酔い運転及び当て逃げの疑いで逮捕された。
16 酒気帯び路外逸脱	新潟県	6月10日 7時10分	死亡: 0 負傷: 0	福島県の国道において、新潟県に営業所を置くトラック・コンテナセミトレーラが進行中、路外へ逸脱し横転した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック・コンテナセミトレーラ運転者の呼気からアルコールが検出された。
17 酒気帯び路外逸脱	青森県	7月3日 3時40分	死亡: 0 負傷: 0	新潟県の市道において、青森県に営業所を置く大型トラックが進行中、後退していたところ、路外に逸脱した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
18 酒気帯び物損	山形県	7月21日 11時00分	死亡: 0 負傷: 0	埼玉県の国道において、山形県に営業所を置く大型トラックが進行中、信号柱、ガードレール及び道路標識に衝突した。この事故による負傷者はなし。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
19 酒気帯び物損	福岡県	8月10日 21時19分	死亡: 0 負傷: 0	福岡県の高速度道路において、同様に営業所を置く大型トラックが進行中、道路工事の車線規制の為に設置されていたガードレールに衝突した。この事故による負傷者はなし。事故後の警察の調べにより、当該トラック運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。
20 酒気帯び衝突	埼玉県	8月13日 4時40分	死亡: 1 負傷: 0	東京都の片側2車線の都道において、埼玉県に営業所を置くトラック・コンテナセミトレーラが第1通行帯を進行中、左側から追い越しに入り込んだバイクに気付かず衝突し、バイク運転者が後続の車両にはねられた。この事故により、当該バイク運転者が死亡した。事故後の警察の調べにより、当該トラック・コンテナセミトレーラ運転者の呼気からアルコールが検出されたため、道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで逮捕された。

出典：メールマガジン「事業用自動車安全通信」(国土交通省)等

図3 「トラック事業における総合安全プラン2020」目標値と事故の現況

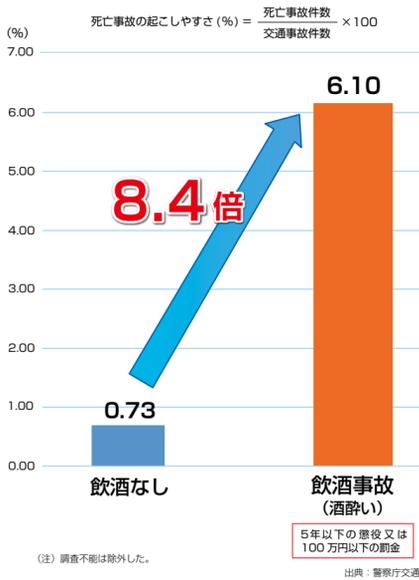
飲酒運転件数 飲酒運転ゼロ 交通事故死者数 200人以下 人身事故件数 12,500件以下

※「飲酒運転ゼロ」目標達成のためには、関係者一丸となって取り組む必要がある。



※「飲酒運転」は「道路交通法違反取件数」の数値で、「酒酔い運転」および「酒気帯び運転」の合計値。数字はいずれも事業用貨物自動車(軽自動車を除く)によるもの。出典：警察庁「交通事故統計」および「公安」交通事故総合分析センター「交通事故統計」、ただし、2020年の飲酒運転事故件数はメールマガジン「事業用自動車安全通信」(国土交通省)等による情報(8月21日現在の速報ベース)

図4 死亡事故の起こしやすさ(令和元年)



(注)調査不能は除外した。

出典：警察庁交通局

図5 飲酒ドライバーに科せられる罰則

事故を起こさなくても違反だけで

酒酔い運転 (道路交通法)

- 5年以下の懲役 又は100万円以下の罰金
- 違反点数35点
- ※免許取消し(3年間は免許が取得できない!)

酒気帯び運転

- 3年以下の懲役 又は50万円以下の罰金

呼気1リットルにつき	違反点数と行政処分	免許処分
0.25mg以上	25点	免許取消し(欠格期間2年)
0.15mg以上0.25mg未満	13点	免許停止(90日)

※上記の行政処分は、いずれも前歴が0回の場合です。

飲酒運転で人身事故を起こすと

危険運転致死傷罪 (自動車運転致死傷行為処罰法)

- アルコールの影響により正常な運転ができない状態で人身事故を起こすと
 - 死亡事故 → 1年以上20年以下の懲役
 - 負傷事故 → 15年以下の懲役
- アルコールの影響により正常な運転ができない恐れのある状態で人身事故を起こすと
 - 死亡事故 → 15年以下の懲役
 - 負傷事故 → 12年以下の懲役

※飲酒運転による死傷事故後に、さらに飲酒をしたり、その場を離れて酔いをさますなどの飲酒の程度をごまかす行為をすると「過失運転致死傷(アルコール等影響発覚免罪罪)」が適用され、12年以下の懲役となります。

過失運転致死傷罪

- 危険運転致死傷罪が適用されない場合でも、自動車の運転に必要な注意を怠り、人を死傷させると
 - 7年以下の懲役もしくは禁錮 又は100万円以下の罰金

減少しない飲酒事故!!

飲酒運転事故発生件数

事業用トラックにおける最近3年間と今年8月21日までの車籍別飲酒運転事故発生件数(図1・2・3)の累計は、大阪府が7件で最多、次に茨城県と福岡県が6件、愛知県が5件となっています。

警察庁によると、令和元年中の全車種による飲酒運転による交通事故件数は3047件で、このうち死亡事故件数は176件でした。また、飲酒の有無による死亡事故の起こしやすさを比較すると、「酒酔い」の死亡事故の危険性は「飲酒なし」の場合の8.4倍にもなることが分かります(図4)。

飲酒運転は反社会的行為

酒酔い、酒気帯びなどの飲酒運転は、きわめて悪質な危険な反社会的・犯罪行為であり、ドライバー本人や同乗者等が厳しく罰せられるだけでなく、万一事故を起こせば被害者やその家族の人生を大きく狂わせることとなります(図5)。